

人・自然・地域・伝統文化を愛する心を育む総合的な学習

【主題名】

守ろう「熊野ドジョウ」 伝えよう「どじょう祭り」

【活動テーマ】

- 人が好き 自然が好き 自分が好き -

広島県安芸郡熊野町立熊野第二小学校 すがはら つねし
菅原 常司

1. 主題設定の理由

ドジョウは今から 30～40 年前には田んぼや用水路、浅い沼や池などに生息し、多くの人々から親しまれ、ドジョウと遊ぶことを通してふるさとのよさ、自然の豊かさを体感してきた。ドジョウは私たちにとって身近な生き物であり、人々はこのドジョウから様々な文化（童謡、どぜう料理）や伝統芸能（どじょうすくい）等を生み出してきた。

しかし今日、土地の基盤整備、河川の改修、排水路の整備や農薬（殺虫剤、除草剤）の使用ため急激にその数は減少し、最近ではその姿をほとんど見ることができなくなってしまった。また、農業をする人の高齢化や農業離れ等、農業の担い手不足により遊休農地や荒廃田などが増えていることもドジョウが減ってきた原因として考えられる。

本校の校区には、四季折々に美しく姿を変える熊野川や雲母（きらら）川が流れ、そこには様々な水生動物が住んでいる。そして今や姿を見ることがなくなってきているドジョウもわずかながら生息をしている。校区にある榊森神社の秋の祭礼では、古くから「どじょう祭り」と呼ばれる湯立ての神事が伝えられ、毎年 10 月末に行われている。

けれども、熊野町に生まれ、生活をしていながら子どもたちの多くは豊かな地域の自然や文化、伝統行事にあまりふれていないのが現状である。

そこで、本主題を「守ろう熊野ドジョウ、伝えようどじょう祭り」と名づけた。子どもたちが「ドジョウ」についての研究や伝統的な行事である「どじょう祭り」等の学びの中から、自から課題を探し、追求テーマを決定して、主体的に課題を解決する方法を見だし、解決する力をつけさせていきたい。

また、情報獲得手段や伝える相手を意識した表現方法を考え、追求する活動を通して「学び方やもの見方、考え方」を身につけ、主体的、創造的に取り組む力を育てていきたい。そして、調べたことを分かりやすく整理し、伝える方法を学び、それを表現していく活動の中から「自己表現力やコミュニケーション能力」を育てていきたいと考えた。

2. 児童の実態

本校の児童の実態をみると、次のような課題がみられる。

【自然体験】

美しい自然に囲まれているのにもかかわらずかかわらな児童は学校や友だちの家とを歩き来するだけで、自然とのふれあう機会が少ない。

ドジョウを見たことがない、ドジョウに触れた経験のない児童が多い。

【環境保全】

町内を流れる川の環境の変化に伴い、これまで生息していたシマドジョウの姿を見ることが難しなり、儀式に使われるドジョウも今では他地域から取り寄せている。

【伝統行事の継承】

校区内の榊森神社では毎年秋に「どじょう祭り」が行われているが、地域に住んでいても祭りのことを知らない人やお祭りに参加する大人や子どもが減ってきている。

【人と人との関わり】

児童と地域の人、高齢者と児童、学校と地域の人などとの協力関係が希薄になり、この祭りを後世に伝えていくことが次第に難しくなっている。

これまで、私たち大人は、「川や池に近づくと危険だから行ってはいけない」「子どもが田んぼに近づくと畦をこわすので困る」というように、子どもたちを家の中へと押し込め、川や田んぼから遠ざけるように子どもたちと接してきた。

その結果、子どもたちは川でなく、ひとり部屋でゲームやテレビを見て過ごす子どもや人と人との結びつきが希薄化して、地域の伝統行事に参加する子どもたちが減ってきた。そのため、今や子どもたちが田んぼや川で遊ぶ姿が消え、地域の人との結びつきも減ってきた。

このような実態から、自然との体験活動や地域の人への聞き取り調査・観察活動、地域の伝統行事に参加するなど、様々な人から学んでいく経験をさらに町全体に広げ、自分たちが生活しているふるさと熊野町を誇りに思う心やくらし、自然、伝統行事等、地域を深くみつめていく学習の時間にしていきたいと考えた。そして、これが自分たちが育った郷土を深く知り、ふるさとを大切に思う心を育てる点においても意義ある学びになると考える。

3. 研究の仮説

地域のお年寄りの方やドジョウ養殖に意欲的に取り組んでおられる「備中どじょう生産組合」の人との交流の場を設定することによって、ドジョウを守るために自分たちで取り組める方法を見だし、それを具体的に行動に移す学びから環境保全へと意識を高めていくことができるだろう。

どじょう祭りへの協力や祭りの参加を通して、自分たちの住む地域の伝統行事を身近に感じ、それを継承していくことの大切さや地域に愛着を持つことができるだろう。

児童が主体性を発揮できる学びの場を設定することによって児童は「自らの問題」として課題を追求し、主体的な実践力を養うことができるだろう。

4. 検証の視点

地域の人や備中どじょう生産組合の人とふれあう活動を通して、自分たちができることや取り組んでみたいことを考え、行動しているか。

作文、日記

熊野川に生きる水生生物を守っていくために、自分たちが学んだことや調べたり調査したことを、伝えたい相手（学校、家庭、地域の人々）を意識して分かりやすくまとめ、表現しているか。

フリップ、Webページ、ポスター、新聞、

ポートフォリオ、写真集、絵本、ものづくり

テーマの解決のための方法を考え、様々な角度から課題を追求し、問題を解決しようとしているか。

レポート、振り返りカード

児童に地域の伝統行事や環境の保全、生命尊重に対する児童の意識を把握し、学習後の意識の変容をとらえていく。 アンケート分析

5. 学習のねらい

- (1)一人一人が自分のテーマを持ち、その課題の解決に向けて自主的・主体的に追求する子を育てる。
- (2)地域に生息するドジョウやどじょう祭りを調べる活動を通して、自分たちの生活や地域の伝統行事を見つめ、郷土に愛着をもつ子を育てる。
- (3)ドジョウを守り、育てていく体験や課題追求学習、どじょう祭りへの参加を通して、地域の自然環境や伝統行事を見直し、「自然と伝統行事の大切さ、人と自然との共生のあり方」に目を向けさせていく。
- (4)地域の自然や伝統行事について調べ、記録したり、収集した情報を整理したりする学びの中から情報を発信していくための効果的な方法を見つけ、表現方法を選択して、表現する力を育てる。
- (5)様々な人との関わりを通して自己の生き方について考えさせていく。

6. 育てたい力

【問題を発見する力】

いろいろな角度から自分のやりたいこと、調べたいことをみつけることができる。

【問題を解決する力】

テーマについて調べる項目やアプローチの方法の計画を立て、多様な解決方法を用いて自主的・主体的に問題を追求することができる

【情報収集・活用能力】

様々な方法で自分の必要な情報を収集し、取捨選択をしながらまとめ、情報を発信していくことができる。

【自己を表現する力】

内容や目的、相手を意識した表現方法を選び、自分の意見や考えを表現することができる。

【自己を高めていく力】

学び方を学び、自分のよさや可能性に気づき、自己を高めていこうと努力することができる。

【人と関わる力】

人と関わり合う活動を通して、新しい見方や考えを広げ、主体的に生きようとする意欲を持つことができる。

7. 教師の願い

熊野川のドジョウを保護し、守り育てる学習が生涯にわたって子どもたちの「地域や自然を愛する心」を支えてくれることを願う。

ドジョウを育てる学習を通して、地域の自然環境を見つめ直し、水環境の大切さ、自然の仕組みの巧みさやすばらしさを体験してほしい。

自分の追求テーマに応じて情報の収集の仕方や学習の進め方、まとめ方を学んでほしい。

テーマを追求する学習を通して、児童がやりとげたという達成感を味わい、仲間意識を深めてほしい。

自信を持って地域の自然・文化について語る子どもになってほしい。

地域の人々やドジョウ養殖の専門の方々との交流を通して、地域の人との結びつきを深めたり、将来の生き方について新しい見方や考えを広げ、主体的に生きようとする意欲を持ってほしい。

8. 支援にあたって

- (1)子どもたちひとり一人に課題意識(何が問題なのか)がもてるような支援をする。
- (2)教師は子どもたちや地域の実態を見つめ、その課題把握に努め、常に課題意識をもって前向きな実践を行う。
- (3)児童の自主性、主体性を大切に、「児童自身が自分の学習をつくっていく学び」となるような支援をする。
- (4)児童が主体的に学ぼうとする行動からでた自由なアイデアを思いついたなら、共に解決の切り口を探す積極的な支援を行う。

- (5) よりよい人間関係づくりを大切に。地域に積極的に働きかけ、人々の理解や協力、参画が得られるよう配慮し、共に子どもたちを育てていくようにする。
- (6) 多くの学びを児童の手にゆだね、児童がテーマを自力で解決する体験や創作活動、追求活動を重視し、自由な発想でテーマを様々な方法で追求する喜びを味わえるようにする。
- (7) 児童の疑問や質問をしっかりと受け止め、何か疑問に思ったことや困難さを感じた時、共感しながら、どうすれば児童が自分の力で解決できるかを児童と共に考えていくようにする。
- (8) 情報を発信する際、伝える相手を意識した分かりやすい表現を工夫させる。
- (9) できたレポートや作品を互いに見合ったり、聞き合ったりしながら、アドバイスや感想を发表し合い、友だちのよさやがんばりを認め合えるようにする。

9 . 実践の経過と考察

(1) 地域を素材にした学びからのスタート

今年度、総合的な学習のキーワードを「地域・子ども・学校を結ぶ学び」とし、地域の方から昔の熊野町の様子や川、田んぼで遊んだ経験、お祭りの思い出などを聞く。この日、偶然にも田んぼの水路を掃除していて見つけたシマドジョウを子どもたちに見せてくださる。お話の後、児童に感想を聞いてみると、ドジョウを初めて見た子、ドジョウにさわったことのない子、川に行って遊んだ経験がない子が多く、ドジョウそれ自体を知らない子どもたちが増えていることがわかった。子どもたちからは、「川へ行き、ドジョウを探してみたい」「家に帰ってどじょう祭りのことをおじいさんやおばあさんに聞いてみたい」という声や感想が出た。

(2) ドジョウの生息地や祭りの調査活動

子どもたちはその後、川や田んぼ、水路にドジョウを探しに行くのだが、ドジョウは見つからなかった。そのため、子どもたちは、「自分たちでドジョウを育て、昔のようなドジョウの住む川にしたい」と考えるようになってきた。そこで、これまで放置されていた観察池を整備し、みんなの手で育て増やす計画を立て、どじょう池を作ることにした。子どもたちは、ドロだらけになって、掃除をする。

減ってきたドジョウを守り、多くの人にこのことを知ってもらうためにドジョウを紹介をするポスターや新聞づくりに取り組む。

(3) 地域の伝統行事の問題に気づく

地域の方やお年寄りの方などへの聞き取り調査から、川や田んぼに昔から生息していたシマドジョウが減っていることやどじょう祭りの参加者が減って、年々お祭りがさびしくなっていることを知る。

(4) ドジョウ飼育の研修

子どもたちは「ドジョウのことをもっと知りた

い」「昔、川にたくさんいたドジョウがいなくなった原因は何だろう」「お祭りに参加する人が少なくなってきたので何とかしたい」という問題や地域の伝統行事に関心を持ち始めた。しかし、教師自身がドジョウについての知識がないためドジョウに関する情報を探していたところ、岡山県備中町にある「備中どじょう生産組合」のことを知る。さっそく連絡をとり、備中町を訪れてドジョウを飼育している田の見学や飼育方法、環境づくりについて学びに行く。

(5) ドジョウを増やす試み

学校でドジョウを飼育して増やし、「昔のようなドジョウがいっぱい住んでいる川にしたい」という願いから自分たちで考え作った看板を池に設置する。備中どじょう生産組合の方から、「ドジョウを育てるにはまず、ドジョウの生態をよく観察し、ドジョウを知ることが大切だ」とアドバイスを受け、ドジョウを岡山県から送っていただく。観察をしながら、ドジョウの育て方、増やし方について調べようという取り組みが始まる。

(6) 6年生の活動テーマ決定

ドジョウを飼育してその生態を研究し、「環境を守る大切さや自然の中で遊び、学ぶ楽しさを学校みんなに伝えよう」と6年生の活動テーマを『人が好き、自然がすき、自分が好き』と設定し、その看板を作ってドジョウ池に設置した。

(7) ドジョウの飼育挑戦と個人追求活動

ドジョウの研究をしていくうちに「ドジョウが安心して住める川の環境とは?」「川によってドジョウの種類が違うのはどうしてか」を明らかにするために、「詳しい生息地調査がしたい」「なぜどじょうが減ってきたのか」「どじょう祭りの儀式について知りたい」など、様々な疑問がでてきた。

そこで、個人の追求テーマを設定し、ドジョウに関する情報を収集していった(資料1、資料2)。

そして、手紙の返事から「ドジョウが住みやすい環境とは水の保全が大切である」ということやドジョウは土と水の仲の良い仲間、ミネラル豊かな水や土を好むこと、「ドジョウの種類によって住む場所が違うこと」などについて知る。

(8) 個人テーマの研究

子どもたちは、ドジョウのこと調べていくうちに自分たちが生活している地域や自然環境、伝統行事についてさらに見直し、「町の自然環境や伝統行事についてもっと知りたい、学びたい」という学びの興味がふくらみ、様々な個人テーマを設定して、意欲的に個人研究や創作活動に取り組んでいく。

(9) テーマ研究・創作活動の様子(画像省略)

【ポートフォリオ】

テーマ研究では、主に自分の調べたいことをインターネットや図書室の本を利用して資料の収集を行い、それを取捨選択しながら整理しながらポートフォリオにまとめていった。

【 創作活動 】

「どじょうの絵本」づくりと英語活動

絵本づくりでは、自分で物語のストーリーを考え、図書室にある本で製本の仕方を調べていく。また、司書の先生からもアドバイスを受け、絵本の作り方や製本の仕方を学んでいく。

できた絵本のお話は英訳をして外国の人にも読んでほしいという願いからAETの先生に翻訳していただき、英語活動の時間にそれを劇で表現する活動を行う。

【 お話の読み聞かせ 】

指人形を作り、ドジョウのお話読み聞かせ

ドジョウのことをもっと他の学年の人にも知ってほしいという思いから「ドジョウの指人形」を作り、低学年の子どもたちにドジョウの楽しいお話をする。

【 児童の創作作品 】

ドジョウのうちわ ドジョウ暖簾づくり 手作りのドジョウ人形 ペットボトルドジョウ観察・捕獲器

(10) ドジョウの赤ちゃん誕生

ドジョウ池の水草の下に網を入れてみると、小さなドジョウらしいものを発見。しかし、それがドジョウの赤ちゃんかどうか確認することができないため、教室に持ち帰り観察をする。子どもたちは、「メダカは水面を泳いでいるけれど、この稚魚は水槽の底を泳いでいる」ことに気づく。解剖顕微鏡でよく観察をして見ると、その稚魚にはひげがあることを発見し、ドジョウの赤ちゃんであることを確認する。

(11) ドジョウの顕微鏡写真撮影に成功

子どもたちは1cmほどの小さなドジョウの撮影を試みているのだが、どうやって撮影すればよいのが悩んだ。いろいろと試しているうちに、子どもたちは解剖顕微鏡のレンズをカメラにつけて撮影するとうまく撮影できることを発見する。このことをきっかけに子どもたちは「ドジョウの写真集」を作ろうと昼休憩や放課後、時間を見つけては熱心にドジョウの写真を撮るようになる。

(12) どじょう組合の方を学校に招待

ドジョウの稚魚を発見した子どもたちはこのことを「どじょう組合」の方に知らせ、お礼に学校に招待してこれまでの活動を報告することにした。

子どもたちは、これまで研究してきたことを整理して報告しようとフリップにまとめた。そして、お世話になった備中どじょう組合の方や地域のお年寄りの方々に教室に招いて報告会を開いた。

(14) ドジョウの生息地調査

夏休みを利用して熊野川に生息するシマドジョウの調査を行った。川に入ってドジョウを観察したこ

とは貴重な体験になり、夢中になって川で遊んだ経験は心に残る思い出になったようだ。この体験から、シマドジョウはきれいな水と砂のある場所に生息することを実感し、川の大切さを体験を通して学ぶことができた。

(15) 地域の方にどじょう祭りのお話を聞く

地域のお年寄りの方から「どじょう祭り」についてお話を聞く。お祭りは古い歴史があり、儀式に使うドジョウが減って困っていることや参加が少なくなっていることを知った(写真15)。

(16) お祭りを盛り上げ、地域を元気に

このお話を聞いて子どもたちは、何か協力できることはないかを考え、多くの人に祭りのことを知ってもらい、参加してほしいという願いからポスターづくりを始めた。

(17) 地域に出かけてポスター貼り

子どもたちの作ったポスターは、みんなで手分けをして公民館や保育所、コンビニなど、人の多く集まる場所に貼り、祭りのアピールをした。

(18) 命の尊さを知る(ドジョウのお墓)

子どもたちがドジョウ池のそばにドジョウの墓をたてる。飼育が初めてなためうまく育てられずに死んでいったドジョウの供養をした。

ドジョウの飼育を通して命の重さ、大切さ活動を体験を通して学ぶことができたと思う。

(19) 「ドジョウすくい」で自己表現

大勢の前でも勇気をだして踊ることができる力や工夫して踊る表現力をつけさせたいと考え、地域の方の指導で運動会の表現は「どじょうすくい」を踊った。子どもたちは、「はずかしいけれど何だか、どじょうすくいって楽しい」「とてもよい思い出が残った」という感想が多かった。

(資料3) 児童の日記より「どじょうすくい」

「とうとう、どじょうすくいだ」。入場して顔を見せたとたん、テントの中からはすごい笑い声が聞こえた。わたしはちょっとははずかしかった。こんな経験は初めてかもしれない。でも、わたしもうれしかった。おどりでは、どじょうをすくうところは自分で工夫しておどることができた。この笑いは一生忘れないと思う。この6年間で一番楽しく、思い出に残る運動会ができたと思う。

10. 実践を振り返って

総合的な学習のキーワードを「地域と子ども、学校を結ぶ学び」として、子どもたちの興味や関心と学校、地域の特色や課題(ドジョウ、どじょう祭り)を取り入れたプロジェクト学習に取り組んできた。

子どもたちは熊野川に生息するドジョウを守っていくための研究や地域の伝統行事であるどじょう祭

りを盛り上げようと行動を起こした。そして、学んだことを多くの人に知ってもらおうと新聞やフリップ、ポスター、写真などにして発信する表現活動を行ってきた。

本実践を振り返り、その成果として次の7点があげられる。

- (1)自然の中での体験（熊野川の調査，見学，ドジョウ捕獲活動）や創作活動を行うことにより，児童の心に残る学習となることができた。
- (2)様々な手段を使って情報を収集し，整理してまとめ，それを発信していく力をつけることができた。
- (3)ドジョウの飼育を通して「生き物や命を大切にできる心情」を養うことができた。また，育てる喜びを味わうことができた。
- (4)地域の方や備中どじょう生産組合の方との交流を通して，人の生き方を考え，学ぶことができた。
- (5)「どじょう祭り」に参加をすることにより学校，子ども，地域との信頼関係や結びきが強くなってきた。
- (6)地域の伝統行事を学ぶことにより，地域を身近に感じ取り，自分たちが生活している地域に愛着を持つことができた。
- (7)ドジョウを守り育てる体験やドジョウが減ってきた理由を考える学習を通して地域の自然のすばらしさを見直し，環境保全の大切さを考えることができた。

これらの活動を通して子どもたちは，自分たちが行っているドジョウの飼育，研究やどじょう祭りに参加し，協力することが多くの人に認められていることを知り，生き生きと学習することができた。また，自分たちのしていることが地域の活性化に役立っていることを聞いて，自分に自信をもち，自分のよさや可能性を見いだすことができたように思う。